

心を込めて淹れたコーヒーを
 愉しみながら、人と人、人と自然が
 つながる居場所を新たに作りました！



起業までの道のり

コーヒーとの関わりは、都内の自家焙煎の有名コーヒー店に勤めた20年ほど前に遡ります。その後、静岡に戻り仕事を転々としながら全国のコーヒー店を巡ったりして過ごしていましたが、2013年に病気が発覚し大きな病院で手術を受けました。当時元気はあるものの常に計器を着けていたため、自由に動けるのは入院している8階のフロアだけでした。そこにはとても眺めのいい待合室があり、おじいちゃんが来てドリッパックのコーヒーを淹れて飲んでいる光景を何度か目にしました。物憂い入院生活の中でコーヒーが与えてくれる癒しのひとときを目の当たりにして、かつての記憶や感情がよみがえってきました。「いつかこんなドリッパックを自分でも作りたいな」と思ったのが起業のきっかけです。

退院後に知人の紹介で、焼津のコーヒー店が主催するコーヒー教室に参加しました。入院前は数年間家に引きこもる生活をしていたので、週1回のこの教室が社会復帰の準備のようなものでした。そこから徐々にコーヒー屋としてイベントに出店し始め、2015年には焼津で「コーヒーショップ松浦」という店舗を構えました。店舗といっても実際は、救急車になるような大きな車に床や天井が貼ってあるものを、他店の敷地内に

設置して営業していました。毎日が露店という感じで、夏は暑く冬は寒いという環境でした。7〜8人ほどが居られるスペースでしたが、僕のコーヒーをおいしいと言ってくれる人たちが常に来られる場所ができて嬉しかったです。そんな活動をしているうちに「おんぱく」を通じて藤枝ともご縁ができました。2016年にSACLABOの事務所が駅南から蓮華寺池公園のポート乗り場のところに移転することになり、スペースをシェアさせてもらえることになりました。車と比べて床は平らだし天井は高いし…おまけに景色も良くて、いい場所に店を出すことができました。

新事業に取り組むきっかけ

僕は人前で何かやるというのが得意ではありません。あるとき中学校の教師をしている知人から、授業の一環で「働く喜び」について生徒たちに話してほしいと頼まれました。軽く引き受けてしまいどうしようかと悩みましたが、ワークショップならやれるかもしれないと思い挑戦することにしました。コーヒーを淹れるセットを持って行き、普段は何かをしてもらう立場の子どもたちがコーヒーを自ら淹れて飲んでみたり、先生や保護者に飲んでもらったりするという体験を提供したんです。僕が言葉で何かを伝えるよりも、生徒自身がその時に何かを感じてくれればという思いで



した。結果はとても好評で、何年かその授業を続けることになりました。そのとき新たにつながった人とは、タイやラオスと一緒にコーヒー豆を見に行くような付き合いが続いています。あまり得意ではないことにも挑戦してみた結果、人と人のご縁が広がっていく実感がありました。2016年に蓮華寺池公園のところで店舗をオープンしたのは4月。桜の季節の公園は本当に人が多くて、泣きたくなくらいお客様が来てくれるのですが、注文から提供までに時間がかかり待たせてしまうことが申し訳なく、自分の中では悩ましいスタートとなりました。試行錯誤を繰り返しながら9年半営業してきましたが4年ほど前、焙煎所として使っていた場所が借りられなくなるということを経験し、新たな焙煎所探しが始まりました。

新事業に取り組んでよかったこと

周りにも協力してもらい、しばらく物件探しに奔走しました。そんなときに見つけたのがこの新店舗の建物で、農機具やオーガニックマーケットの資材を置く倉庫だった建物の一角を焙煎所として借りることができました。当初は焙煎所だけあればいいと考えていましたが、そのうちふと「全部をカフェにできればいいな」と思うようになったのです。改修を手伝ってくれる人たちも同じ思いで、2022年頃から新店舗づくりの打合せを重ねるようになりました。公園のところでできることはやり終えた感じがありました。県外でもイベントに出るようになると遠方のお客様に商品を送る機会も増えました。自分の意

思を大切にしながら、大きくなってきた事業を誰かと一緒に営んでいけるような、自分らしい店づくりを考えるようになりました。新店舗では依頼した建築士の水や大地、自然に対する想いに共感し、それを体現できる店づくりを考え、床材や柱ひとつひとつにも意味のある素材を使っています。同様に共感してくれた仲間たちが自然と集まり、これまで1人でやってきた事業が、誰かと一緒にやれる事業になっていったのです。その楽しさを知ることができて本当に良かったです。僕はコーヒーしか出せないけれど、美味しく元気になるご飯を作ってくれる人と一緒にやることで、お客様にもとても喜んでくれます。昔からのお客様だけでなく、ずっと気になっていて初めて来たという人、建築士のファンの人、ご近所さんなど様々な新しいつながりが生まれる場所になりそうです。

これからの夢や目標

まずはこれまで出張でやっていたワークショップをこの店でやっていきます。小中学生たちと一緒に珈琲豆を焼いて、ドリッパックを作って淹れるということをやりたいです。スペースもそういう設計にしています。また僕自身もそうでしたが、学校にあまりなじめていない子どもたちが楽しんでくれるようなことも考えたいです。小さい頃、地域のおじさんと竹とんぼを作ったり、原木にしいたけの菌を打ち付けたり、大人と関わるのがとても楽しかったので。そういう関わりをコーヒーを通じて提供できたらと思っています。実際そこまでは想像していなかったのですが、いつも何かをしてもらう側の子どもが家族のためにコーヒーを淹れてあげるという経験が、親子関係にもいい影響を

与えているようです。喜ぶお母さんの顔などを見るとやってよかったし、続けていきたいと思います。また拠点としてこの店ができたことで、近隣の商店街も含めて回遊できる街になっていくと嬉しいです。個店も増えて訪れる人も増えていく…時間はかかりますが面白い人がいっぱいいる街、「人」が「人」に寄ってくる街づくりに自分もうまく混ぜてほしいなと考えています。

エフドアをこれから利用する人に

コーヒーのワークショップは、僕が子どもの頃に感じた大人と関わる楽しさを共有したいと始めたことでした。そんな普通のことに「価値」があること、「事業」として成り立つことをエフドアでは教えてもらいました。決してそこを目指していたわけではないけれど、「面白い」「価値がある」と言ってもらえてありがたかったです。訪ねたきっかけはクラウドファンディングと空き店舗活用の補助金の相談先がエフドアになっていたことでした。最近はいろいろな相談先があり、結構きついことを言われることもあると人から聞いていましたが、エフドアは何かを見出してくれて押し上げてくれる感じがして、行ってよかったなと思っています。行政と聞くと堅苦しいイメージが浮かぶかもしれないけれど、全然違うので必要なときには訪ねてみてください。



マツウラコーヒー

住所 藤枝市藤枝5-5-15

Instagram <https://www.instagram.com/matsuura.coffee/>



松浦一樹さん

【プロフィール】

自家焙煎珈琲豆をハンドドリッパで提供。「コーヒー」を通じて出会った様々な人との縁に感謝しながら、蓮華寺池公園の近くの路地で日々笑い声を響かせている。9年半にわたり地域で愛されてきた蓮華寺池公園ポート乗り場前の旧店舗から、2025年11月に満を持して新店舗へ移転。4年をかけて丁寧に作り込んだ新しい居場所は、自然や人のもつエネルギーに満ち溢れたパワースポットに。